

# 市民文芸

## 短歌

阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

- 特選 手に取りて稲穂の重みたしかめる老爺微笑み天を仰ぎぬ 西田 修身
- 特選 施設へと介護のバトン渡し終え乾いた庭の花に水やる 亀島賀陽子
- 特選 一心に苔剥ぐ墓誌に陽の射して戦没ビルマ二十九歳 井上 京子
- 特選 コーラーというもの飲んでみよようかの父と入りたるあの夏の店 入谷五十鈴
- 特選 ガラス越し金魚の真正面の顔目が合うよううで合わないようで 川崎 和美
- 特選 「帰ってこんだよ」とあなたに電話する「無事にいてね」と願いながら 岩田賀代合
- 特選 長生きをしてネと添書きぶらさげて桔梗の鉢が孫より届く 勢井 恒子
- 特選 ギブスとれ両手で洗顔できること何と幸せざぶざぶ洗う 森田 道子
- 特選 蒸し暑き藍の作業場カンガルーの匂ひがすると言へる人あり 浅海 弥生
- 特選 師の歌碑の予言と仰ぐ言の葉よ「この平安の先は知り得ず」 福崎 孝子

## 俳句

阿南市俳句連合会 選

- 東の間にとけし彩雲冬木立 岡久 玲子
- エプロンで金柑拭きて味わいし 山川 喜美
- 小走りの宅配人や十二月 宮繁ただし
- 数え日やはやぶさ2の無事帰還 近藤ヤス子
- 献立の決まらぬままに日短 山田 美紀
- 塩鮭を逆さに吊す軒の下 中富はるか
- 地を蹴ってポコッと出づる大根引 庄野 早苗
- 絵手紙を習い始める年の暮 表原 清美
- 来る年を静かに待ちて山眠る 西條 佳恵
- 捨て棚田風吹き抜ける神無月 東條 明宏

## 川柳

阿南川柳会 田上鶴子 選

- 恋敵今やすっかり好々爺 橋本 征介
- 音楽の森で第九を歌う幸 渡邊 浪漫
- 涙って枯れてもすぐに出るんだね 鈴木レイ子
- いつになく優しい言葉案の定 滝川 太郎
- 子とランチコロナ対策みて安堵 持木 寿栄
- 深呼吸いつもの声で春を呼ぶ 二階千代美
- 欲しいのは今一歩出す勇氣です 野村 敏子
- 一般応募
- 幸せはみんな違った形でいい 島尾美津子
- 免許返納自粛生活板につく 武田 敏子
- 盗ることも愛ですキミに上げる星 仁井 信子

## 漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

- 探梅 池田 行子
- 春寒溪谷暗香流 春寒の溪谷 暗香流る
- 林下探梅半日遊 林下の探梅 半日の遊
- 恰好横斜黄鳥囀 恰好好し横斜 黄鳥の囀り
- 恍然停杖足清幽 恍然杖を停むれば 清幽足る
- 明谷梅林 田中 公
- 阿南明谷惠風吹 阿南の明谷 惠風吹けば
- 宛似羅浮玉屑霏 宛ら羅浮の似く 玉屑霏ぶ
- 騷客恍然林下路 騷客恍然 林下の路
- 衣襟馥郁帶香歸 衣襟馥郁 香を帯びて帰る
- ※羅浮―昔の中国の梅の名所

### 早春偶成

大地 和子

- 庭梅日暖急香發 庭梅日暖かにして 香發するを急ぎ
- 窗雪風和待凍開 窓雪風和らぎて 凍の開くを待つ
- 含蓄未深列巴調 含蓄未だ深からず 巴調を列ね
- 繡書拈韻愧無才 繡書拈韻 才無きを愧ず
- ※巴調―へたな詩



【チンゲンサイ】  
本市では加茂谷で栽培を開始し、その後広域へ。年間最大9回収穫できるため、周年で出荷しており、約200t/年を生産。エグミ・臭さがなく、鍋、炒め物、さまざまな料理に合います。新規就農者も増加傾向にあります。